

大腸癌の治療のため受診中あるいは受診経験のある 患者さんまたはご家族の方へ

臨床研究に対するご協力をお願い

愛媛県立中央病院では、上記の病気で受診された方の検体や診療情報(カルテ情報)を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。

本研究への協力を望まれない場合、研究についての詳しい情報を希望される場合などは、その旨、以下の「問い合わせ先」までご連絡をお願いします。本研究への協力を望まれない旨のご連絡を頂いた場合は研究対象からは除外させていただきますので、検体や診療情報は利用されず、また他の研究機関への提供も行いません。

【研究課題名】 大腸癌手術における腹腔洗浄細胞診陽性例の臨床的特徴と予後に関する後ろ向き研究

【研究の目的】

大腸癌ではおなかの中(腹腔内)に癌細胞が出てくることがあり、進行癌が疑われる場合は手術の際に腹腔内を少量の生理食塩水で洗って癌細胞がいるかどうかを確認しています(腹腔洗浄細胞診)。この洗浄液の中に癌細胞がいた場合、どのくらいの割合で癌が再発するのか、寿命はどの程度なのか、まだわかっていません。今回の研究の目的は、洗浄液内に癌細胞がいた場合(陽性)といなかった場合(陰性)の再発率や生存率を比較し、腹腔洗浄細胞診を行うことの意義を確認することです。さらに、陽性の場合には手術後の化学療法により再発率や生存率が向上するのかどうかを調査します。

【対象となる方】

大腸癌の患者さんで、2012年4月1日から2019年12月31日の間に当院で大腸癌に対する手術(癌の切除や人工肛門増設のみを含む)を受けた方

【使用する検体・診療情報】

検体:手術で切除した癌

カルテ情報: (診断名、年齢、性別、身長、既往歴(糖尿病、慢性呼吸器疾患、慢性肝疾患、慢性腎疾患、心疾患)、術前の採血結果(ヘモグロビン値、血小板数、アルブミン値、クレアチニン値、CEA、CA19-9)、腫瘍の臨床病期、術前治療の有無および内容、術式、手術時間、出血量、術後合併症(縫合不全の有無)、術後在院日数、腫瘍の病理組織結果(病期、脈管侵襲の程度、組織型、腹腔洗浄細胞診の結果)、無再発生存期間、全生存期間、術後化学療法の有無および内容)

【研究期間】 臨床研究審査委員会承認日から2026年12月31日

【個人情報の取扱い】

使用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報

報は公表いたしません。

【研究責任者】

愛媛県立中央病院

消化器外科 医長 永岡智之

【問い合わせ先】

松山市春日町 83 番地

愛媛県立中央病院

消化器外科 医長 永岡智之

電話 089-947-1111 FAX 089-943-4136